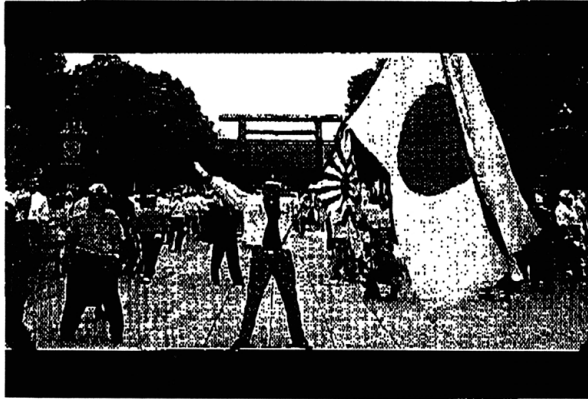


# 靖国映画「事前試写を」



映画「靖国」の一場面。ナレーションはいっさい入らない＝アルゴ・ピクチャーズ提供

## 自民若手が要請↓全議員対象に

靖国神社を題材にしたドキュメンタリー映画の国会議員向け試写会が、12日に開かれる。この映画は4月公開予定だが、内容を「反日的」と聞いた一部の自民党議員が、文化庁を通じて試写を求めた。配給会社側は「特定議員のみを対象にした不自然な試写には応じられない」として、全国会議員を対象とした異例の試写会を開くことを決めた。映画に政府出資の基金から助成金が出ていることが週刊誌報道などを通じて明らかになり、試写を求めた議員は「一種の国政調査権で上級を制するつもりだ」と話している。

(石川智世)

映画は、80年から日本に在住する中国人監督、李健さんの「靖国 YASUKUNI」。4月12日から都内4館と大阪1館でのロードショー公開が決まっている。李監督の事務所と配給・宣伝会社の「アルゴ・ピクチャーズ」(東京)によると、先月12日、文化庁から「ある議員が内容を問題視している。事前に見られないか」と問い合わせがあった。マスコミ向け試写会の日程を伝えたが、議員側の都合

## 議員「助成あり検証」配給側「事実上の検閲」

がつかないとして、同庁からは「試写会場を手配するのでもDVDかフィルムを貸して欲しい。貸し出し代も払う」と持ちかけられたという。

### 文化庁が仲介

同社が議員名を問うと、同庁は22日、自民党の稲田朋美衆院議員と、同議員が会長を務める同党若手議員の勉強会「伝統と創造の会」(41人)の要請、と説明したという。同庁の清水明・芸術文化課長は「公開前の作品を無理やり見せるとは言えないので、要請を仲介、お手伝いした」といい、一方で「こうした要請を受けたことは過去にない」とも話す。

朝日新聞の取材に稲田議員は、「客観性が問題とまではいかない。議員として見るのは、一つの国政調査権」と話す。同じく同党議員でつくる「平和靖国推進」と合同で試写

会を開催、試写後に同庁職員と意見交換する予定だったという。

### 「反日」と報道

「靖国」は、李監督が07年から撮影を開始。一般の戦没遺族のほか、軍服を着て自らの歴史観を語り、若者や皇族旗を掲げて小泉元首相の参拝を支持する米国人など、終戦記念日の境内の様々な光景をナレーションなしで映し続ける。先月のベルリン国際映画祭などにも正式招待された。アルゴの宣伝担当者は「イデオロギーや政治色はない」と話す。南京事件の写真で一部で論争になっているものも登場することなどから、マスコミ

向けの試写を見た神社新報や週刊誌が昨年12月以降、「客観性を欠く」「反日映画」と報道。文化庁が指導する独立行政法人が管理する芸術文化振興基金から08年度に助

成金750万円が出ていたことも問題視した。同基金は政府出資と民間寄付を原資とし、運用益で文化支援している。

稲田議員は「表現の自由や上映を制限する意図はまったくない。でも、助成金の支払われ方がおかしいと取り上げられている問題を議員として検証することは必要」。アルゴ側は「事実上の検閲」と反発していたが、「問題ある作品という風評が独り歩きするよりは、より多くの立場の人に見てもらった方がよい」と判断し、文化庁と相談のうえで全議員に案内を送った。会場は、同庁が稲田議員のために既に用意していた都内のホールを使う。

李監督は「『反日』と決めつけるのは狭い反応。賛否を超えた表現をしたつもりで、作品をもとに議論すべきだ」と話す。